

技術で暮らしを支えるやりがい ～先輩エンジニアの声～

組込みシステムの世界でも、日本のモノづくりの明日を担う若手エンジニアが多数活躍している。

ここでは、その中から2社の先輩エンジニアを紹介。

学生時代の経験がどう生きているかや、仕事のやりがいなどについて語ってもらった。

未来の社会づくりに直結する手応えがある

大学の専攻は機械系、研究室のテーマはモーター制御でした。いわば、ハードに関する勉強をしてきたのですが、モノづくりの世界で働くには、ソフトの知識、経験も身に着けたほうがキャリアの選択肢が広がる。そう考えたのが組込みシステムを選んだ理由です。

入社後の研修でC言語の基礎を固め、プロジェクトに配属されてからは、要件定義からテスト、納品までを一通り経験しましたが、最初に痛感したのは求められるレベルの高さ。要求に100%応えるのは当たり前、どれだけプラスαの仕事

ができるかで評価が決まります。

現在、携わっているのは、自動車の先進運転システムの制御を、より高度化するための基礎研究を行うプロジェクトです。今後、自動車は自動運転の実用化などに向けて、ますます組込みシステムの進化が求められる領域です。未来の社会づくりに直結しているという実感があり、それが大きなやりがいになっています。

単にプログラムを書くのではなく、最終的に自動車がどう動くのかまでを想像してプログラムを考えられるのが私の強みだと思っています。将来はハード



TDIプロダクトソリューション株式会社
制御システム事業部
オートモーティブ制御システム部
長島 祥氏

とソフト、両方の視点、知識、経験を持つ組込みエンジニアとして、イノベーションを創造するプロジェクトに、リーダー的な立場で参加したいですね。

未知の領域に挑むことで開ける新たな気づき

入社3年目の組込み開発技術者です。いま担当しているのは半導体製造装置の制御システム。複雑なメカを動かす「頭脳」ともいえる部分です。組込み開発のおもしろいところは、「動くもの」を相手にしていること。動くものは机上で考えた通りに制御できません。「ハードと向き合い、よく知ることで狙い以上の力を引き出す」ことが組込み開発の醍醐味です。

就活時代は組込み開発業界は考えてみませんでした。「東京で働けること」、「研究を通じて得た知見を生かせ

る」点で、いまの会社を選びました。ビジネス系開発部門を希望していましたが、配属されたのは組込み系開発部門。そこから全てが始まりました。組込み開発のおもしろさに気が付いたのは、研修としてロボット競技会「ETロボコン」に参加して、ロボットを開発したときです。4ヶ月間、夢中で取り組み、地区大会を突破して全国大会まで進出できたことが自信につながりました。

いまはソフトウェアだけでなくハードウェアの知識を増やし組込み開発のスキルをもっと高めたいと思っています。



株式会社セントラル情報センター
産業・流通ソリューション部
第1グループ
藤原 侑人氏

す。これから社会に出る皆さんにも、未知の世界に飛び込むことで得られる、新たな気づき、面白さを体験してほしいですね。